

授業科目名	国語表現	担当講師名	李 知垣
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	多くの職業場面で、私たちは言語を媒介として様々な事象を把握する。そのため、言語の仕組みや体系を理解することは重要である。本授業は、職業現場の実際の状況、適切な教材、包括的な課題を参照しつつ、話す・聞く、書く、読む、といった日本語に係る職業上の能力を高めることを目指す。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	1. 言語表現とは何か	ガイダンス	講義
2	2. 日本語の技能-話し言葉と書き言葉-	話し言葉と書き言葉	講義
3	3. 「聞く」ことと「話す」こと	構成	講義
4	4. コミュニケーション実践	話し手、聞き手	グループ ワーク
5	5. 日本語の技能 -意味の限定・言葉の順序-	語順、文の構成	講義
6	6. さまざまなコミュニケーション -様々な場面で-	電話、対面、遠隔	講義
7	7. レポートを書く -パラグラフをつくる (準備)	具体的、抽象的	講義
8	8. レポートを書く -問いをつくる	ブレインストーミング、問い	グループ ワーク
9	9. レポートを書く-パラグラフをつくる (主題の整理)	主題、ブレインストーミング	グループ ワーク
10	10. レポートを書く -パラグラフをつくる (執筆)	パラグラフ	講義
11	11. レポートを書く -パラグラフをつくる (推敲) -「事実」と「意見」のちがひ	パラグラフのつながり	講義
12	12. コミュニケーションのなかで フィードバックを与える/受け取る	フィードバック	グループ ワーク
13	13. レポートを書く -注意すべき表現-	敬語、敬意表現	講義
14	14. レポートを書く -まとめ-	既習事項まとめ	講義
15	15. 参考文献と引用文献とは	出典、引用	講義
評価方法	筆記試験及び平常点		
教科書	指定なし		

授業科目名	倫理学	担当講師名	桑原 英之
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	倫理学とは人として何をすべきか／すべきでないかを考える学問である。特に医療・福祉の現場では生死に関わる判断が難しい倫理的問題が山積しており倫理的判断力が不可欠である。看護師としてももちろんのこと、患者や家族の視点、時に社会全体を俯瞰する視点など問題を多角的に捉え倫理的思考力と判断力を養うことを目標とする。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	イントロダクション：倫理学で何を何のために学ぶか理解する。	道徳、規範、善悪、当為	講義
2	医療職に求められる倫理：医療分野の倫理の歴史・社会的背景を理解する。	生命倫理4原則、パターナリズム	講義
3	自己決定の重要性：自己決定の尊重が重視される理由を理解する	インフォームドコンセント、インフォームドアセント	講義
4	動物と命の倫理：人間の命のために犠牲となる動物の命の問題を理解する。	動物を用いた臨床試験、種差別批判、5つの自由	講義
5	終末期医療と倫理：死を前にして考える人生の意義を理解する	死の受容、鎮静の倫理、終末期の3分類	講義
6	尊厳死・安楽死の倫理的問題1：安楽死の分類を理解する。	積極的安楽死、自殺ほう助	講義
7	尊厳死・安楽死の倫理的問題2：裁判事例やガイドラインを理解する。	厚労省ガイドライン、東海大学病院事件	講義
8	重症新生児治療の停止の問題：治療停止をめぐる倫理的問題点を理解する。	ベビー・ドゥー事件、SOL	講義
9	生殖補助医療における倫理的問題点：不妊治療の倫理的課題を理解する。	ART、AID、IVF、代理懐胎、子どもの選別	講義
10	出生前診断の倫理的問題：出生前診断の種類とガイドラインを理解する。	NIPT、羊水検査、遺伝カウンセリング、優生思想	講義
11	選択的中絶の倫理的問題：中絶をめぐる法律と問題を理解する。	母体保護法、優生保護法、リプロダクティブライツ	講義
12	臓器移植の倫理的問題：改正臓器移植法のルールを理解する。	臓器移植法、オプトアウト/イン	講義
13	脳死と臓器移植の倫理的問題2：脳死という死の意味を理解する。	献体、法的脳死判定、三徴候死	講義
14	遺族と弔いの倫理：弔うことの意義やグリーフワークの重要性を理解する。	フロイト、ボウルヴィ、セルフヘルプグループ	講義
15	全体のまとめ：これまでの講義内容の要点を振り返り再確認する。	倫理的判断力、不確実な事態に向き合う力	講義
評価方法	筆記試験		
教科書	ナーシング・サプリー編集委員会(編)『事例で学ぶ ケアの倫理』(メディカ出版、2015)		

授業科目名	生物学	担当講師名	富山 浩昌
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>この地球上には多種多様な生き物が繁栄を謳歌しているが、それぞれが生命活動を営む基本的な仕組みは、全ての生物で共通である。その中で、多くの生物が有している、体内を一定の状態に保つ働きは特に重要なもので、これが年間を通じた活動を可能にする要因の一つになっている。</p> <p>そこで本授業は、生物の恒常性を維持する基本的な原理を学ぶことで、生命現象を理解する端緒とすることを目標として進めていく。</p>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	序：1) 勉強について、テストについて 2) 生物の特徴 ～共通性と多様性 3) 生物学の種類	種差・個体差・地域差 生殖と遺伝 刺激応答 恒常性維持マクロ 生物学・微生物学	講義
2	『生物体の基本構成』 1. 生命の基本単位—細胞  2. 生命活動の単位—1) 個体 2) 組織 3) 器官と器官系	原核/真核細胞 細胞膜・細胞質・核 細胞小器官  単細胞/多細胞生物 上皮/結合/筋/神経組織	〃
3	『生物体の基本構成』つづき 3. 個体の形成—1) 発生と分化 2) 幹細胞 補足：再生医療  4. 個体の維持と細胞死 補足：人体常在菌	個体 胚発生 全能性 形態形態 細胞分化 幹細胞 胚性/体性幹細胞  アポトーシス・ネクローシス 皮膚常在菌 腸内常在菌	〃
4	『恒常性を維持する仕組み』 恒常性の維持と体内ネットワーク  『神経性相関 (神経伝達)』 1. 神経系  2. 神経伝達のしくみ  3. 自律神経系	ホメオスタシス 神経系・内分泌系・リンパ系 フィードバック調節/制御  中枢/抹消神経系 体性/抹消神経 ニューロン・グリア細胞  神経細胞体・軸索・シナプス 電気伝導・化学伝達 速効性・限局的作用  交感神経と副交感神経 ノルアドレナリン・アセチルコリン拮抗的 作用 二重神経支配	〃
5	『液性相関 (内分泌調節)』 1. ホルモン—ホルモンとは、ホルモンの種類 ホルモン作用の仕組み  2. 内分泌系—主な内分泌腺、内分泌系の調節	内分泌・外分泌 体液 受容体特異性 微量で効果 遅効性・広範囲の作用  視床下部・間脳・各内分泌腺 フィードバック調節	〃
6	『神経・内分泌調節』 1. 血糖値の調節—1) 低血糖時 2) 高血糖時	通常の血糖値 交感神経系 膵臓ランゲルハンス島 副腎皮質・副腎髄質 インスリン グルカゴン	〃
7	『神経・内分泌調節』つづき 2. 体温の調節—1) 体温低下時 2) 体温上昇時	中心温度 (直腸温度) 産熱・放熱の仕組み ふるえ/非ふるえ産熱 交感神経系 チロキシン	〃

回	授業内容	キーワード	備考
8	『免疫応答』 1. 免疫とは—語義と定義 2. 免疫の種類—1) 自然免疫 2) 獲得免疫	自己と非自己 非特異性・特異性 先天/後天免疫 一次応答・二次応答	〃
9	『免疫応答』つづき 3. 免疫系—1) 免疫系組織  2) 免疫担当細胞	リンパ系組織 中枢リンパ系組織—骨髄・胸腺 抹消リンパ系組織—虫垂・リンパ節  白血球・リンパ球・T細胞・B細胞 マクロファージ・樹状細胞	〃
10	『免疫応答』つづき 3. 免疫系—3) 液性免疫因子  4. 獲得免疫のしくみ—1) 獲得免疫の種類 2) 獲得免疫発動機序	免疫( $\gamma$ )グロブリン 抗原・抗体 IgG・IgM・IgA・IgE サイトカイン  細胞性/体液性免疫 抗原提示 ヘルパーT細胞	〃
11	『免疫と医療』 1. 免疫療法の種類—免疫能の強化/低下 2. ワクチン療法—ワクチンとは 主なワクチン ワクチンの効果	ジェンナー パストゥール 能動免疫 弱毒生/不活化/遺伝子ワクチン	〃
12	『免疫と医療』つづき 補足：遺伝子ワクチン  3. 血清療法  4. がんの免疫療法	遺伝子とは タンパク質合成 メッセンジャーRNA  受動免疫 血清病  がん 良性/悪性腫瘍 がんの標準治療法 外科的/化学的/放射線療法	腫瘍と 〃
13	『免疫と疾患』 1. 免疫過剰反応による疾患 —1) アレルギー 2) 自己免疫病	即時型/遅延型アレルギー IgE 肥満細胞 化学伝達物質	〃
14	『免疫と疾患』つづき 2. 免疫能低下に起因する疾患—免疫不全症 3. がんと免疫	原発性/続発性免疫不全症 がんの発生・進行・転移と免疫	〃
15	『ストレスとホメオスタシス』 1. ストレスとストレス反応 —1) ストレスとは 2) ストレス反応過程 2. ストレスと神経・内分泌系 3. ストレスと免疫系	大脳辺縁系—視床下部 非特異的ストレス反応 ストレスホルモン	〃
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 基礎分野 生物学 (医学書院)		

授業科目名	看護に必要な物理	担当講師名	大又 巧也
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 16時間
授業の目標 及び概要	<p>苦手意識をもつ人が多く敬遠されがちな物理学ですが、看護動作や医療機器の背後にある原理や仕組みを知れば「なるほど」とうなずけることもたくさんあるはずです。臆せず看護に活かせる知識を身につけましょう。</p>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	重心と支持基底面	力の性質、重心、立ち上がり動作	講義
2	力のモーメントとてこの原理	力のモーメント、てこの原理	講義
3	ニュートンの3法則	慣性、運動の法則、作用と反作用、摩擦	講義
4	圧力の基礎	圧力の単位、大気圧、静水圧、パスカルの原理	講義
5	呼吸器の物理	温度、ボイルの法則、混合気体の分圧、拡散現象	講義
6	吸引、サイフォンの原理	胸腔ドレーン、吸引圧の制御、サイフォン	講義
7	血圧の物理	血流抵抗、血圧測定の方法、重力の影響	講義
8	点滴の計算問題、まとめ	点滴速度	講義
評価方法	筆記試験 60%、平常課題 40%		
教科書	看護学生のための物理学 第6版 (医学書院)		

授業科目名	情報科学 I	担当講師名	川野 正嗣
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 16 時間
授業の目標 及び概要	ICT（情報通信技術）の基礎を学び、情報リテラシーを養う。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	情報科学・情報化社会・メディアとは何か	情報、データ、知識	講義
2	日常生活の中の ICT	ICT	講義
3	インターネットとメディアリテラシー、Web2.0、SNS	メディアリテラシー、Web2.0	講義
4	医療における情報システムと情報セキュリティの問題	情報システム、情報セキュリティ	講義
5	看護場面のクリティカルシンキング	クリティカルシンキング	講義
6	ネットワーク上での情報収集	インターネット、フィッシング詐欺	講義
7	情報倫理と医療倫理 1	ヒポクラテスの誓い	講義
8	情報倫理と医療倫理 2	ヘルシンキ宣言	講義
評価方法	筆記試験によって評価する。 授業への参加度も加味し、授業態度の著しく悪い者は減点する。		
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学（医学書院） 講義資料を配布し、参考となる文献は適宜紹介する。		

授業科目名	情報科学Ⅱ	担当講師名	川野 正嗣
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護現場で用いられている ICT の活用方法について学ぶ。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	コンピュータの基本操作とタイピング		講義
2	インターネットによる情報収集		実習
3	Word を使った文書作成1 (文書作成の基本)		実習
4	Word を使った文書作成2 (図形の作成と編集)		実習
5	Word を使った文書作成3 (書式・表の設定)		実習
6	Word を使った文書作成4 (文書作成実践練習)	チラシ・宛名ラベル・DM	実習
7	Excel の使い方1 (表計算の基本)		実習
8	Excel の使い方2 (関数を使った計算)		実習
9	Excel の使い方3 (絶対参照と相対参照)		実習
10	Excel の使い方4 (グラフ作成)		実習
11	Excel の使い方5 (応用的な関数の利用)	IF、LOOKUP 関数	実習
12	PowerPoint の使い方		実習
13	PowerPoint によるスライド作り		実習
14	PowerPoint を使ったグループ発表		実習
15	Microsoft アプリケーションまとめ		実習
評価方法	筆記試験およびグループ発表の相互評価 授業への参加度も加味し、授業態度の著しく悪い者は減点する。		
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 (医学書院) 講義資料を配布し、参考となる文献は適宜紹介する。		

授業科目名	心理学	担当講師名	高橋 千津子
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	患者や自分自身や周りの人間の行動を理解するために、パーソナリティや記憶、態度変容や説得、集団行動といった身近で基礎的な心理学を学習する。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	心理学とは何か	看護と心理学、現代心理学の分野	講義
2	パーソナリティの理論	パーソナリティ、類型論、特性論 MPI 短縮版	講義 実施
3	パーソナリティの理論	精神分析理論、認知理論	講義
4	パーソナリティの形成	遺伝的要因、生物学的要因(不安遺伝子、TypeA型、T型人間、神経過程等)	講義
5	パーソナリティの形成	経験的要因(幼児期体験の重要性一刻印づけ、初期経験等)、環境的要因	講義
6	パーソナリティの形成のメカニズム	(育児方法、親の養育態度、交友関係、職業等)、社会的強化、モデリング、ラベリング	講義
7	パーソナリティの診断	行動観察法、観察法、 Y-G性格検査	講義 実施
8	パーソナリティの診断	テスト法(質問紙法、作業検査法、投影法)	講義
9	記憶のしくみ	短期記憶、長期記憶、リハーサル、スキーマ、同化、チャンク化、体制化	参加型 講義
10	社会—社会的知覚	認知的強調化、社会的知覚の傾向性、閾下知覚、カクテルパーティ現象等	講義
11	社会的態度と態度変容	態度の特性、ニューカムの均衡理論 認知的不協和理論	講義
12	説得的コミュニケーション	信憑性、一面的、両面的コミュニケーション、ブーメラン効果、要請法	講義
13	集団と集団決定	集団決定、集団凝集性、集団規範 集団決定の効果—NASA 課題	講義 グループ
14	リーダーシップと同調性	リーダーシップの機能、PM理論、集団 圧力と同調	講義 グループ
15	群集の心理	群集の特性、没個性化、援助行動 テスト範囲	講義
評価方法	筆記試験		
教科書	あなたの心を科学するバージョンⅢ (北大路書房)		

授業科目名	社会学	担当講師名	四辻 厚
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	この講義では私たちが暮らす社会の成り立ちや仕組みについて、これまでの社会学がどのように取り組み、どのような発見をしてきたのかを改めて振り返ることによって、社会を知る方法とその知見について、理解を深めていく。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	イントロダクション	行為と行動	講義
2	相互行為とコミュニケーション	相互行為論	講義
3	患者—医療者関係	地位	講義
4	セクシュアリティとジェンダー	性概念	講義
5	多様な家族の形	家族社会学	講義
6	現代社会における若者	若者問題	講義
7	子どもの病気と親子関係	小児がん	講義
8	映画を通して学ぶ	「子どもが教えてくれたこと」	DVD 視講
9	現代社会における病気と障害	障害学	講義
10	就労と障害	労働問題	講義
11	医療と社会制度	社会保障	講義
12	多様性と代表性	多様性	講義
13	社会学の諸理論	社会学理論	講義
14	死の社会学	死	講義
15	全体のまとめ	現代社会の生き方	講義
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 基礎分野 社会学 (医学書院)		

授業科目名	英語 I	担当講師名	渡邊 拓
開講時期	1 年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	患者と接するに必要な定型的英会話と医療英単語の習得		
回	授業内容	キーワード	備考
1	ガイダンス	教材紹介、自己紹介、到達目標	
2	UNIT 1	単語テスト、朗読、英作文	
3	UNIT 2	単語テスト、朗読、英作文	
4	UNIT 3	単語テスト、朗読、英作文	
5	UNIT 4	単語テスト、朗読、英作文	
6	UNIT 5	単語テスト、朗読、英作文	
7	UNIT 6	単語テスト、朗読、英作文	
8	UNIT 7	単語テスト、朗読、英作文	
9	UNIT 8	単語テスト、朗読、英作文	
10	UNIT 9	単語テスト、朗読、英作文	
11	UNIT 10	単語テスト、朗読、英作文	
12	UNIT 11	単語テスト、朗読、英作文	
13	UNIT 12	単語テスト、朗読、英作文	
14	UNIT 13	単語テスト、朗読、英作文	
15	UNIT 14	単語テスト、朗読、英作文	
評価方法	平常点、筆記試験		
教科書	現場ですぐに役立つ！実践メディカル英会話(メディカ出版)		

授業科目名	英語Ⅱ	担当講師名	渡邊 拓
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	患者と接するに必要な定型的英会話と医療英単語の習得		
回	授業内容	キーワード	備考
1	現場ですぐに役立つ！実践メディカル英会話(メディカ出版)・UNIT 15	単語テスト、朗読、英作文	
2	現場ですぐに役立つ！実践メディカル英会話(メディカ出版)・UNIT 16	単語テスト、朗読、英作文	
3	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院)・UNIT 1	単語テスト、朗読、英作文	
4	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 2	単語テスト、朗読、英作文	
5	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 3	単語テスト、朗読、英作文	
6	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 4	単語テスト、朗読、英作文	
7	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 5	単語テスト、朗読、英作文	
8	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 6	単語テスト、朗読、英作文	
9	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 7	単語テスト、朗読、英作文	
10	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 8	単語テスト、朗読、英作文	
11	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 9	単語テスト、朗読、英作文	
12	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 10	単語テスト、朗読、英作文	
13	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 11	単語テスト、朗読、英作文	
14	クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院) UNIT 12	単語テスト、朗読、英作文	
15	まとめ	単語テスト、朗読、英作文	
評価方法	平常点、筆記試験		
教科書	現場ですぐに役立つ！実践メディカル英会話(メディカ出版) クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院)		

授業科目名	健康とレクリエーション	担当講師名	好光 栄智
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	体力を維持増進し、健全な心身の育成を目指す。 レクリエーションの意義を理解し企画・指導方法を考えられる。 グループダイナミクスを体験することで、協調・協働・指導性を発揮する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	自己紹介	自己紹介ゲーム	実技
2	ソフトバレーボール	練習・試合・審判	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9	フットサル	練習・試合・審判	
10			
11	ソフトバレーボール	練習・試合・審判	
12			
13	バドミントン・ソフトバレーボール	練習・試合・審判	
14	バドミントン	練習・試合・審判	
15	まとめ	健康について	
評価方法	レポート点および平常点		
教科書	なし		

授業科目名	音楽	担当講師名	河合 清子
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 16時間
授業の目標 及び概要	<p>式典曲の練習。          合唱曲を歌うことで、グループダイナミクスを体験し、協調、協働することが出来る。          手話曲を通じて、手話に親しみ、難聴者へのコミュニケーションの糸口にする。          音楽を聴くことによる心身のリラックスを図る。</p>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	校歌音取り ナイチンゲール讃歌上パート音取り おおシャンゼリゼ音取り、二部合唱	みんなで歌ってみよう	講義
2	校歌音取り、歌い方深める ナイチンゲール讃歌上下パート音取り、合唱 ともだちになるために音取り、1番歌いながら手話 おおシャンゼリゼ音取り、二部合唱	ハモってみよう 手話曲を体験しよう	講義
3	校歌グループ練習 ナイチンゲール讃歌上下パート音取り、合唱 ともだちになるために2番歌いながら手話 おおシャンゼリゼ二部合唱	グループで歌ってみよう	講義
4	校歌グループ練習、歌詞の意味確認 ナイチンゲール讃歌合唱 ともだちになるために1, 2番歌いながら手話	グループで歌を深めよう	講義
5	校歌歌唱テスト ナイチンゲール讃歌合唱 切手のないおくりもの音取り	思いっきり歌おう	講義
6	ナイチンゲール讃歌グループ練習 身にshめて音取り 切手のないおくりもの1, 2番歌いながら手話	グループでハモってみよう	講義
7	ナイチンゲール讃歌グループ練習 身にshめて歌い方深める 切手のないおくりもの1～5番歌いながら手話	グループで歌を深めよう	講義
8	ナイチンゲール讃歌グループで練習 身にshめて暗譜 ともだちになるために復習、切手のないおくりもの歌いながら手話	楽しんで復習しよう	講義
評価方法	平常点と、グループ歌唱テスト点で評価する。		
教科書	式典歌集		

授業科目名	解剖生理学 I	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	序章 人体の構造と機能を学ぶため	解剖学と生理学の対象、解剖学と生理学の関連	講義
2		解剖学的正常位、方向用語、断面 上腕の前面と後面に触知できる筋肉は何か 体表から脈拍を触知できる動脈・人体内部の臓器	
3	第1章 解剖生理学のための基礎知識	器官・組織・細胞間の関係、細胞内小器官の種類と特徴 ATP合成の3つの過程、遺伝子が発現してタンパク質が合成されるまでの過程、細胞膜にあるタンパク質の働き	
4			
5		女性と男性との染色体の違い、結合組織の種類と分布、骨格筋・心筋・平滑筋の特徴、神経細胞の構造	
6		静止電位と活動電位	
7	第2章 栄養の消化と吸収	消化管(口腔からの各部位の名称)、乳歯と永久歯の相違点、咀嚼、嚥下の3つの過程、胃壁を構成する細胞と分泌する物質、小腸と大腸の相違点、排便の調節機序	
8			
9		糖質・タンパク質・脂肪の消化・吸収、肝臓の血液循環、肝臓の機能、膵臓・脾臓・胆嚢と十二指腸の位置関係、膵液と胆汁の流れ、膵液と胆汁に含まれる物質と働き	
10			
11	第3章 呼吸と血液のはたらき	呼吸と生命維持、鼻腔・副鼻腔、咽頭と鼻腔・口腔・食道・喉頭の連絡、声門と発声・肺門	
12			
13		吸気時および呼気時の肋骨と横隔膜の位置、全肺気量の構成要素、吸気・呼気のガス組成の変化、細胞から二酸化炭素の運搬、換気血流比の不均衡発生時の是正、呼吸中枢の仕組み、異常呼吸の呼吸パターン	
14			
15	まとめ		
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	解剖生理学Ⅱ	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	第4章 血液の循環とその調節	心臓の弁膜の開閉、冠状動脈とは、動脈・毛細血管・静脈の構造の違い、門脈とは	講義
2		心臓の自動性の機序、心電図と刺激伝導系	
3		心周期と心臓の動き	
4		血圧と心周期の関係、血圧測定時の注意点、容量血管、血圧を調節する仕組み、リンパの走行	
5			
6	第5章 体液の調節と尿の生成	腎臓の正常な位置・大きさ、腎臓の血管系の特徴、糸球体とは、尿細管の各部位における水とナトリウムの移動、腎臓におけるバゾプレッシン・アルドステロン・ANP・パラソルモンの機能と作用部位、クリアランスとは	
7			
8		傍糸球体装置の2つの機能、尿が作られる排泄されるまでの経路、不感蒸泄、酸塩基平衡が崩れたときの反応、血漿中のNa <sup>+</sup> 濃度の上昇・下降時の症状	
9			
10	第10章 生殖・発生と老化の仕組み	卵巣の機能、卵管・子宮・膣・膀胱・直腸との位置関係、卵胞・黄体・卵子の発生、排卵の時期	
11			
12	第10章 生殖・発生と老化のしくみ 生殖器系—子孫を残すしくみ女	月経周期にともなう子宮内膜の変化、下垂体前葉ホルモンおよび卵巣ホルモンの変化、受精と受精卵の着床、妊娠による母体の変化、分娩の開始から終了までの3期	
13			
14	第10章 生殖・発生と老化のしくみ 生殖器系—子孫を残すしくみ男	精子の産生後・射精されるまでの経路、精巣の特殊な細胞の名称と機能、男子の生殖腺の名称、開口部および分泌腺の役割、陰嚢が精巣の温度調節における役割と機能、陰茎の構造、精子の形成過程、男性ホルモンの機能	
15			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	解剖生理学Ⅲ	担当講師名	①新藤光郎 ②宮越一穂
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	血液 1	造血のしくみ、赤血球の役割、血液型	新藤講師
2	血液 2	止血の機序（血小板、凝固因子）	
3	血液 3	白血球の役割、感染防御のしくみ	
4	内分泌 1	内分泌と外分泌の違い、視床下部、脳下垂体の解剖、機能、フィードバック	
5	内分泌 2	甲状腺、副甲状腺の解剖、機能、膵臓、性腺の解剖、機能	
6	内分泌 3	腎、副腎の解剖、機能	
7	第7章 身体の支持と運動	骨の発生と成長、骨の機能、骨膜の意味、一般的な関節の名称、脊柱の湾曲の特徴、脊柱を形成する椎骨の種類と数	宮越講師
8			
9		胸郭を構成する骨、骨盤を構成する骨、骨盤の男女差、鼠径管の中、頭蓋底を構成する骨、頭蓋骨にみられる主な突起、頭の回転運動と関節の種類	
10			
11		骨学実習 骨のスケッチ	
12		筋の起始と停止、筋原線維を構成するフィラメントとその特徴、運動神経線維と活動電位、骨格筋の収縮、単収縮と強縮の違い、等尺性収縮と等張性収縮の違い	
13			
14		横隔膜の孔、呼吸運動と筋、大殿筋・上腕三頭筋・大腿四頭筋の拮抗筋、手の回内運動と回外運動の筋の作用、骨格筋と心筋の収縮の特徴	
15			
評価方法	①新藤講師 40点（講義アンケート・筆記試験） ②宮越講師 60点（筆記試験）		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 （医学書院）		

授業科目名	解剖生理学IV	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	第8章 情報の受容と処理 神経系の構造と機能	ニューロン、樹状突起・細胞体・軸索、グリア細胞のはたらき、不応期とは、有髄神経と無髄神経の興奮伝達の違い、シナプスにおける興奮の伝達過程	講義
2	脊髄と脳 脊髄神経と脳神経		
3	第8章 情報の受容と処理 脳の高次機能	脳の高次機能、運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路	
4	運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路		
5	第8章 情報の受容と処理 自律神経による調節	自律神経とホルモンの作用の違い、自律神経の節前線維と節後線維、交感神経の節前線維から放出される神経伝達物質・節後線維から放出される伝達物質と作用部位	
6			
7	第8章 情報の受容と処理	眼の構造と視覚	
8	眼の構造と視覚		
9	第8章 情報の受容と処理 耳の構造と聴覚・平衡感覚 味覚と嗅覚・痛み 第9章 身体機能の防御と適応 皮膚の構造と機能	耳の構造と聴覚・平衡感覚 味覚と嗅覚 痛覚 皮膚の構造と機能	
10	第9章 身体機能の防御と適応 生体の防御機能	生体防御、免疫、細胞免疫、液性免疫、自然免疫、獲得免疫、免疫細胞、食細胞（大食細胞・好中球）、抗原と抗体、抗原提示細胞、リンパ球（T細胞・B細胞）、サイトカイン、 $\gamma$ グロブリン、免疫グロブリン（IgG・IgA・IgM・IgD・IgE）	
11			
12		形質細胞、免疫グロブリン、H鎖・L鎖、骨髄腫、マクログロブリン血症、T細胞（ヘルパーT細胞・サプレッサーT細胞）、CD4・CD8	
13			
14		過敏症、アレルギー、膠原病、自己免疫疾患	
15			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（医学書院）		

授業科目名	生化学	担当講師名	山本 恵三
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護学において、人体を維持する仕組みを理解するうえで基本となる、生化学的視点を養うことを目標とする。 1. 生体を構成する分子の構造を生化学的な視点から理解する。 2. 生体内で物質がどのように反応して生命を維持しているのかを理解する。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	原子と分子・化学結合	生化学を学ぶための基礎的な化学	講義
2	有機化合物・構造異性体	生化学を学ぶための基礎的な化学	講義
3	エナンチオマー・代謝の基礎	教科書第2章 A	講義
4	酵素の基礎知識	教科書第2章 B, E	講義
5	補酵素・補因子・ビタミン	第2章 C, D	講義
6	糖質の構造と機能	教科書第3章	講義
7	糖質の代謝①	教科書第4章	講義
8	糖質の代謝②	教科書第4章	講義
9	脂質の構造と機能	教科書第5章	講義
10	脂質の代謝	教科書第6章	講義
11	アミノ酸。タンパク質の構造と機能	教科書第7章	講義
12	アミノ酸・タンパク質の代謝	教科書第8章	講義
13	タンパク質の翻訳と翻訳後修飾	教科書第13章	講義
14	シグナル伝達	教科書第14章	講義
15	理解度をはかる演習	試験に向けて理解度をはかる	演習
評価方法	筆記試験、各授業における小テスト		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 (医学書院)		

授業科目名	栄養学	担当講師名	吉田 有里
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	栄養学は人間の健康づくりのための学問であり、その基礎知識を学習することは、看護実践能力の向上に必要不可欠である。本講義では、食品と栄養素、ライフステージに応じた望ましい食生活、臨床での栄養アセスメント、栄養管理、栄養食事療法への理解を深めながら、栄養学的な知識を習得する。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	ガイダンス／人間栄養学と看護／ 栄養素の種類とはたらき（1）	栄養と栄養素、糖質、脂質、たんぱく質	講義
2	栄養素の種類とはたらき（2）	ビタミン、ミネラル、食物繊維、水	講義
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	消化酵素、消化吸収率、合成・分解と貯蔵	講義 DVD
4	エネルギー代謝	アトウォーターの指数、基礎代謝、特異動的作用、身体活動レベル（PAL）	講義
5	食事と食品	日本食品標準成分表、食事バランスガイド、保健機能食品、特別用途食品	講義
6	日本人の食事摂取基準（2020年版）	推定平均必要量（EAR）、推奨量（RDA）、目安量（AI）、耐容上限量（UL）、目標量（DG）	講義
7	ライフステージと栄養（1）	授乳・離乳の支援ガイド、食物アレルギー、食育、メタボリックシンドローム	講義
8	ライフステージと栄養（2）	妊産婦のための食生活指針、摂食嚥下、低栄養、PEM,	講義 学内演習
9	栄養ケア・マネジメント	栄養スクリーニング、栄養ケア計画、行動変容ステージモデル、PDCA サイクル	講義
10	栄養状態の評価・判定 （栄養アセスメントの実際）	身体計測、臨床検査、臨床診査、食事調査、評価法（SGA/MNA-SF）	学内演習 DVD
11	臨床栄養（1）	病院食、NST、経腸栄養法（経口/経管）、経静脈栄養法（TPN/PPN）	講義
12	臨床栄養（2）	疾患・症状別食事療法、場面別栄養管理	講義 DVD
13	症例検討	栄養看護計画の立案	GW 発表
14	健康づくりと食生活 （国民健康・栄養調査）	食育基本法、健康日本21、食生活指針	講義
15	まとめ	栄養学に関する看護師国家試験過去問題	講義
評価方法	筆記試験 85% 出席・提出物 15%		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 （医学書院）		

授業科目名	微生物学	担当講師名	新藤 光郎
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	病原微生物について、看護現場に必要な知識を身につけ看護現場での感染管理の実践に役立てる		
回	授業内容	キーワード	備考
1	微生物と疾病	微生物とは？ 生物学の復習 (DNA/RNA) 分類 (細菌とウイルスの違い)	
2	細菌の性質 1	細菌の一般的構造 (グラム染色)	
3	細菌の性質 2	細菌の分裂、エネルギー代謝、物質輸送、エネルギー代謝, 常在細菌叢	
4	ウイルス、真菌の性質	ウイルス、真菌の構造、増殖など (原虫も含む)	
5	感染症とその防御 1	感染と保菌の違い、感染経路★	★重要
6	感染症とその防御 2	生体防御機構 (自然免疫と獲得免疫)	
7	感染症の予防	滅菌と消毒★、標準予防策★、ワクチン★	★重要
8	感染症の診断	各種検査法について、院内感染★	★重要
9	感染症の治療	化学療法薬 (抗生物質)、薬剤耐性	
10	微生物各論 1	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌	
11	微生物各論 2	グラム陰性桿菌、食中毒★	★重要
12	微生物各論 3	グラム陰性桿菌 (ヘリコバクター)、グラム陽性桿菌 (芽胞産生)、結核菌★	★重要
13	微生物各論 4	嫌気性菌、その他の細菌 (マイコプラズマ、クラミジア)	
14	微生物各論 5	DNA ウイルス (ヘルペス属など)、真菌、原虫	
15	微生物各論 6	RNA ウイルス、プリオン	
評価方法	筆記試験 および 授業アンケート		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 (医学書院)		

授業科目名	病理学	担当講師名	奥野 高裕
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	病理学は病気の原因、発生の機序、病気による臓器・組織の変化、その経過、予後を追求する学問である。病気の原因や各種疾患に共通する変化を学ぶことにより、病気への理解を深め、その治療、予防に対する基礎的知識を会得する事を目標とする		
回	授業内容	キーワード	備考
1	病理学とは	病理学とは、病院における病理医の役割	講義
2	細胞・組織の損傷と修復、炎症	細胞・組織の反応、傷害	講義
3		炎症とは、炎症のメカニズム、炎症の分類	講義
4	免疫、移植と再生医療	免疫とは、免疫のしくみとその異常による疾患	講義
5	感染症	感染症とは、感染症をおこす病原体、感染経路	講義
6	循環障害	うっ血、充血、虚血、側副循環	講義
7		血栓、塞栓、浮腫、高血圧	講義
8	老化と死	老化のメカニズム、死に関連した病態	講義
9	復習	国家試験問題、解説	講義
10			講義
11	代謝障害	脂質異常・糖尿病などの代謝疾患	講義
12	先天異常	先天異常の種類、遺伝形成、染色体異常による疾患	講義
13	腫瘍	腫瘍の定義、分類、命名法、発生メカニズム	講義
14		がんの診断・治療	講義
15	まとめ	国家試験問題	講義
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 (医学書院)		

授業科目名	病態生理学 I 呼吸器系、歯・ 口腔系 乳癌、 免疫アレルギー 感染症	担当講師名	①平野勝也 ②勝島将夫 ③荻澤佳奈 ④田村泰久
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	①呼吸器系 呼吸機能障害メカニズム	呼吸器の解剖、換気障害、拡散障害、ガス交換障害、酸塩基平衡の障害	平野講師
2	①呼吸器系 呼吸機能障害の症状	咳嗽、喀痰、血痰・喀血、胸痛、呼吸困難	
3	①呼吸器系 検査	呼吸機能検査、画像診断（胸部 X 線、CT） 気管支鏡・造影検査、胸腔穿刺	
4	①呼吸器系 主な疾患と病態生理・治療	間質性肺炎とその他の肺炎	
5		COPD、気管支喘息、気胸	
6		肺癌、呼吸不全	
7	②免疫・アレルギー系 アレルギーと免疫のメカニズム	生体防御の仕組み、免疫担当細胞と伝達物質 アレルギーの仕組み	勝島講師
8	②免疫・アレルギー系 主な疾患と病態生理・治療	アレルギーと免疫	
9		アレルギー疾患（喘息、アレルギー性鼻炎 アナフィラキシー）	
10		自己免疫疾患（関節リウマチ、膠原病）	
11		感染症	
12			
13	③乳房	乳房の解剖生理、乳がん	荻澤講師
14	④歯・口腔系 主な疾患と病態生理・治療	齲歯、歯周病、粘膜疾患、腫瘍 顎骨壊死、口腔ケア	田村講師
15			
評価方法	①筆記試験 45 点 ②筆記試験 45 点 ③なし ④レポート 10 点		
教科書	系統看護学講座 専門分野（医学書院） ①呼吸器 ②アレルギー 膠原病 感染症 ③女性生殖器 ④歯・口腔		

授業科目名	病態生理学Ⅱ 消化器系、栄養・代謝系	担当講師名	①小味渕智雄 ②濱井智恵 ③福田隆 ④久米田靖郎
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を 実践するための基礎とする。		
回	授業内容（主題）	参考資料	備考
1	①消化器系 消化器系臓器の機能的・解剖学的 総論	消化管臓器の解剖学的名称 消化管臓器の生理機能 消化管臓器の 運動	参考資料Ⅰ～Ⅵ スライド 7～13
2	①消化器系 消化器系疾患の症状・徴候		スライド 14～22
3	①消化器系 診察・検査	理学的検査、検体検査、画像検査 内視鏡検査総論	スライド 25～31 32～47 49～69
4	①消化器系 消化管疾患の症候・治療総論	消化管疾患の病態（その1）	講義資料③ 講義資料④＝①②
5	①消化器系 大腸・小腸の疾患・治療	消化管疾患の病態（その2） 機能性消化管疾患	小腸・大腸疾患 講義資料④＝③④
6	①消化器系 解剖生理学	肝臓・胆嚢・膵臓の解剖学的解説	参考資料Ⅶ～ ⅩⅡ
7		腹水、黄疸、肝性脳症	スライド資料
8	①消化器系 肝臓疾患の特有な症状・病態生理	肝臓疾患（肝炎、肝硬変、肝臓癌、等）	講義資料⑥ スラ イド資料
9		胆道疾患（胆のう炎、胆石症、等） 膵疾患（膵炎、膵臓癌、等）	講義資料⑦ スラ イド資料
10	①消化器系	まとめ	
11		糖尿病の病態・合併症	
12		糖尿病の治療	
13	②栄養・代謝系	高脂血症	
14		高尿酸血症、酸塩基平衡	
15		内分泌疾患 工場園・副甲状腺、下垂体、副腎）	
評価方法	①筆記試験 65点 ②筆記試験 35点		
教科書	①系統看護学講座 専門分野 消化器（医学書院） ②系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝（医学書院）		

授業科目名	病態生理学Ⅲ	担当講師名	①小味渕智雄 ②久米田靖郎 ③竹垣嘉訓 ④西川毅
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	血液成分、血球の構成を確認する。 各血球の機能を学習し、その異常により発生する血液疾患を理解する。 各血球の分化過程の異常による血液疾患を理解する。		
回	授業内容	参考資料	備考
1	①血液・造血器系	血液学総論 血漿、血球の構成、造血のしくみ DVD『血液働きと成分』	スライド資料 I ①～②
2		貧血（定義、分類、発生機序）	スライド資料 II ①～②
3		出血性疾患（定義、止血の全体像、分類）	スライド資料 III ①～⑱
4		造血器腫瘍（発生機序、分類、治療）	スライド資料 IV ①～⑩
5	②腎・泌尿器系	腎の解剖・機能、血液検査の見かた、尿異常 透析患者の動向	
6		急性腎不全、慢性腎不全、ネフローゼ症候群をおこす疾患、腎生検	
7		心臓と腎臓の関連、IgA腎症、糖尿病性腎症、腎硬化症	
8		血液透析、腹膜透析、腎移植について	
9	③男性生殖器	前立腺癌の病態生理・検査・診断・治療法 その副作用	
10		前立腺肥大症の病態生理・検査・診断・治療法 手術について	
11		男性性機能障害、精巣腫瘍の病態生理・検査・診断・治療法	
12	④女性生殖器	女性生殖器の構造と機能、診断・検査	
13		診察、検査と治療、処置	
14		外陰・膣・子宮・卵管の疾患	
15		月経異常、更年期障害、感染症	
評価方法	①筆記試験 25点 ②筆記試験 25点 ③筆記試験 25点 ④筆記試験 25点		
教科書	①系統看護学講座 専門分野 血液・造血器（医学書院） ②③系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器（医学書院） ④系統看護学講座 専門分野 女性生殖器（医学書院）		

授業科目名	病態生理学 IV 脳神経系 運動器系	担当講師名	①新藤 光郎 ②森川 潤一
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	①脳神経 1	脳血管障害（脳内出血、脳梗塞）、脳局在機能、脳血管の解剖（復習）	ウイルス 脳動脈輪
2	①脳神経 2	脳血管障害（くも膜下出血）、意識障害の分類	JCS GCS
3	①脳神経 3	脳腫瘍（下垂体腺腫）、脳神経の復習	
4	①脳神経 4	変性疾患（パーキンソン病）、不随意運動を来す疾患	
5	①脳神経 5	頭蓋内感染症（髄膜炎、脳炎）、髄液の流れの障害および対策	水頭症および治療
6	①脳神経 6	脊髄疾患（脊髄損傷、前脊髄動脈閉塞症）、自律神経について	
7	①脳神経 7	頭部外傷（急性硬膜外血腫、慢性硬膜下血腫、脳挫傷）	
8	①脳神経 8	脳死、認知症	脳死判定基準
9	②運動器系	運動機能障害のメカニズム 運動麻痺、知覚障害	
10		運動機能の検査および処置 脊髄腔造影検査、各種牽引	
11		骨折の病態生理・診断・治療	
12		骨粗しょう症、	
13		椎間板ヘルニア、脊髄損傷	
14		ギプス固定の演習	
15		大腿骨頸部骨折の治療	
評価方法	①筆記試験 および 授業アンケート 55点 ②筆記試験 45点		
教科書	①系統看護学講座 専門分野 脳・神経（医学書院） ②系統看護学講座 専門分野 運動器（医学書院）		

授業科目名	病態生理学V 循環器 皮膚 眼 耳	担当講師名	①宮越一穂 ②水田綾 ③板野瑞穂 ④後藤孝和
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	①循環器系 症状	胸痛、動悸、呼吸困難（起坐呼吸）チアノーゼ、 ショック、	宮越講師
2	①循環器系 検査	心臓超音波検査、心筋シンチ、心電図、胸部レント ゲン	
3	①循環器系 疾患	血圧測定、血圧異常、高血圧症、 リスクファクター	
4	①循環器系 検査	心臓カテーテル検査、心血管造影	
5	①循環器系 疾患と治療	虚血性心疾患、狭心症、心筋梗塞、経皮的冠動脈形成 術（PCI）、バイパス術（CABG）	
6	①循環器系 疾患と治療	弁膜症、心内膜炎、心筋炎、開心術	
7	①循環器系 疾患と治療	不整脈、心房細動、ペースメーカー装着術、アブレー ション（焼灼術）	
8	①循環器系 疾患と治療	心不全、心筋症、心臓リハビリテーション、緩和ケア	
9	①循環器系 疾患と治療	動脈硬化症、閉塞性動脈硬化症、大動脈解離、大動脈 瘤、静脈瘤	
10	②皮膚	皮膚の構造、湿疹、アトピー・接触皮膚炎	水田講師
11		疥癬、乾癬	
12	③眼	眼の構造、視力障害、視野障害、視機能検査（眼底 検査、眼圧測定など）	板野講師
13		白内障、緑内障、網膜剥離、老視	
14	④耳鼻咽喉	聴覚障害、平衡機能障害、聴力検査、平衡機能検査	後藤講師
15		中耳炎、副鼻腔炎、メニエール病、喉頭がん、老人性 難聴、突発性難聴	
評価方法	①筆記試験 55点                      ②筆記試験 15点 ②筆記試験 15点                      ④筆記試験 15点		
教科書	①系統看護学講座 専門分野 循環器（医学書院） ②系統看護学講座 専門分野 皮膚（医学書院） ③系統看護学講座 専門分野 眼（医学書院） ④系統看護学講座 専門分野 耳鼻咽喉（医学書院）		

授業科目名	治療論	担当講師名	①飛田忠之 ②賀陽亮太郎 ③
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 16時間
授業の目標及び概要	様々な状況下にある患者の治療方法や、リハビリテーション療法を学び、基礎的知識とする。		
回	授業内容	参考資料	備考
1	①概説	手術侵襲と生体反応、生体反応の推移、サイトカイン、手術侵襲評価、炎症、炎症の治療、感染症、外科感染症、外傷、熱傷、ショック	
2		内視鏡的治療	
3		放射線療法	
4	②麻酔法	麻酔の種類、麻酔による生体反応	
5	③リハビリテーション療法	リハビリテーション療法の目的、リハビリテーション療法の種類と特徴	
6		関節可動域測定	
7		MMT、障害受容	
8		関節可動域測定、MMT	実習室で 実技
評価方法	①筆記試験 50点 ②なし ③筆記試験 50点		
教科書	①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 (医学書院) ②系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) ③系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)		

授業科目名	薬理学	担当講師名	梶原 啓伯
開講時期	1年後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	臨床の現場で患者のケアにあたる看護師にとって、医薬品の作用機序、体内動態、有効性、安全性や投与方法など、薬理学的知識とその活用は必要不可欠となる。看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的基礎知識の習得を目指す。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	薬理学を学ぶにあたって (第1章) 薬理学の基礎知識-1 (第2章)	薬物治療と看護, 薬理学とはなにか, 薬が作用するしくみ (薬力学), 薬の体内動態 (薬物動態学)	講義
2	薬理学の基礎知識-2 (第2章)	薬物相互作用, 薬効の個人差に影響する因子, 薬物使用の有益性と危険性, 薬と法律, 物質としての薬物の分類	講義
3	抗感染症薬-1 (第3章)	感染症治療に関する基礎事項, 抗菌薬	講義
4	抗感染症薬-2 (第3章) 抗がん薬-1 (第4章)	抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬, 感染症の治療における問題点, がん治療に関する基礎事項	講義
5	抗がん薬-2 (第4章) 免疫治療薬 (第5章)	抗がん薬の種類, 免疫系の基礎知識, 免疫抑制薬, 免疫増強薬・予防接種薬	講義
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (第6章) 末梢での神経活動に作用する薬物-1 (第7章)	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬, 抗炎症薬, 関節リウマチ治療薬, 痛風・高尿酸血症治療薬, 神経系による情報伝達と薬物	講義
7	末梢での神経活動に作用する薬物-2 (第7章) 中枢神経系に作用する薬物-1 (第8章)	交感神経作用薬, 副交感神経作用薬, 筋弛緩薬・局所麻酔薬, 中枢神経系のはたらきと薬物, 全身麻酔薬, 催眠薬・抗不安薬	講義
8	中枢神経系に作用する薬物-2 (第8章)	抗精神病薬, 抗うつ薬・気分安定薬, パーキンソン症候群治療薬, 抗てんかん薬, 麻薬性鎮痛薬, 片頭痛治療薬	講義
9	循環器系に作用する薬物-1 (第9章)	降圧薬, 狭心症治療薬, 心不全治療薬, 抗不整脈薬	講義
10	循環器系に作用する薬物-2 (第9章)	利尿薬, 脂質異常症治療薬, 血液凝固系・線溶系に作用する薬物, 血液に作用する薬物	講義
11	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 (第10章)	呼吸器系に作用する薬物, 消化器系に作用する薬物, 生殖器・泌尿器系に作用する薬物	講義
12	物質代謝に作用する薬物 (第11章) 皮膚科用薬・眼科用薬-1 (第12章)	ホルモンとホルモン拮抗薬, 治療薬としてのビタミン, 皮膚に使用する薬物	講義
13	皮膚科用薬・眼科用薬-2 (第12章) 救急の際に使用される薬物 (第13章)	眼科用薬, 救急に用いられる薬物, 急性中毒に対する薬物	講義
14	漢方薬 (第14章) 消毒薬 (第15章) 輸液製剤・輸血剤-1 (付章)	漢方医学の基礎知識, 漢方薬各論, 消毒薬とは, 消毒薬の適用, 輸液製剤	講義
15	輸液製剤・輸血剤-2 (付章) 看護業務に必要な薬の知識 (巻末資料)	輸血剤, 薬に関する単位, 処方せん, 添付文書	講義
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 (医学書院)		

授業科目名	臨床検査学	担当講師名	桑山 和哉 他
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 16時間
授業の目標 及び概要	臨床検査の意義や目的を理解し検査データを解釈できることをねらいとする。 また検査データの解釈ができることで看護実践に役立てることができる。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	臨床検査についての総論	臨床検査の意義・目的 検体の取り扱い（血液・尿・便など）	講義
2			
3	一般検査（尿・便など）	1) 尿検査 種類・外観と色調・尿の成分・基準値・検査結果の解釈 2) 便検査 外観の性状・潜血反応・虫卵、虫体、検査結果の解釈 3) 体腔内貯留液検査	
4	血液学的検査	※検査の意義 検査結果の解釈 1) 血球検査 2) 出血凝固検査	
5	化学検査	※検査の意義 検査結果の解釈 1) 血清たんぱく質 2) 血清酵素 3) 糖代謝 4) 脂質代謝 5) 胆汁排泄関連物質 6) 腎機能 7) 水・電解質	
6	免疫・血清学的検査	※検査の意義 検査結果の解釈 1) 炎症マーカー 2) 液性免疫 3) 自己抗体 4) 腫瘍マーカー 5) 輸血に関する検査	
7	内分泌的検査	※検査の意義 検査結果の解釈 1) 下垂体前葉・後葉ホルモン 2) 甲状腺ホルモン 3) 男性・女性性腺ホルモン	
8	微生物学的検査	※検査の意義 検査結果の解釈 呼吸器感染症・尿路感染症	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 臨床検査 (医学書院)		

授業科目名	医療概論	担当講師名	小味渕 智雄
開講時期	1年 前期	単位及び時間数	1単位 16時間
授業の目標 及び概要	現在の医療がどのように発展してきたかを理解するとともに、最新の画期的な新技術の活用によってもたらされた現代の医療を理解する。 現代医療の諸問題について理解できる。		
回	授業内容	参考資料	備考
1	“人の生と死について考えてみよう” (その1) 死の定義、脳死、臓器移植	スライド資料Ⅰ ①～⑨ DVD『脳死・臓器移植 決断の日々』	
2	“人の生と死について考えてみよう” (その2) 癌の告知、安楽死	スライド資料Ⅱ ①～⑪ DVD『彼女は安楽死を選んだ』	
3	“健康と疾病の関連をいかに把握するか” 健康の概念、ヘルスプロモーション	スライド資料Ⅲ ①～⑬	
4	医学の歴史に学ぶ 医療の歴史	スライド資料Ⅳ ①～⑮ コピー資料Ⅳ A・B	
5	“わが国の医療状況と供給体制を総合的に 考えてみよう” (その1) 日本の医療現況 世界との比較 他	スライド資料Ⅴ ①～⑳	
6	“わが国の医療状況と供給体制を総合的に 考えてみよう” (その1) 救急医療 医療保険制度	スライド資料Ⅵ ①～⑱ DVD『日本の医療は守れるか』	
7	医療倫理 倫理総論 生命倫理 (人工授精、体外授精)	スライド資料Ⅶ ①～⑭ コピー資料Ⅶ 新聞資料Ⅶ A・B	
8	遺伝子診断 再生医療	スライド資料Ⅷ ①～㉑ 新聞使用Ⅷ A～F	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 (医学書院)		

授業科目名	社会福祉 I	担当講師名	竹元 志保
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 16時間
授業の目標 及び概要	①社会保障と社会福祉が果たす役割や看護職が社会福祉を学ぶ意味を理解する。 ②日常生活における社会問題に気付く力を養い、それらの問題に対応する法律や制度ならびに援助技術を学ぶ。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	イントロダクション 社会福祉と看護の接点	社会保障・社会福祉・福祉と医療の接点	
2	社会保障と社会福祉①	生存権・1950年勸告・社会保障の範囲	
3	社会保障と社会福祉②	社会保険・公的扶助・社会福祉	
4	社会福祉の法体系	社会福祉法・福祉三法・福祉六法	
5	社会福祉の歴史と展開	戦後の社会福祉関係法の展開	
6	高齢者福祉の概要 障害者福祉の概要	老人福祉法 障害者基本法・障害者総合支援法	
7	児童家庭福祉①	児童の権利に関する条約 児童福祉法	
8	児童家庭福祉②	母子保健法 児童虐待防止法	
評価方法	平常点（リアクションシートの内容と授業参加度）30点 小テスト2回（10点×2回＝20点） 最終テスト50点		
	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉（医学書院）		

授業科目名	公衆衛生学	担当講師名	久保 勝己
開講時期	1年 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	公衆衛生学の主目的は、人間集団と個人の健康の維持・増進と疾病の予防を図ることである。集団と個人の健康やQOLを維持・改善する能力の向上と人々の生命の延伸を行うための知識・技術を学ぶ。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	公衆衛生を学ぶにあたって 公衆衛生とは	ナイチンゲール、ウインスロー	
2	公衆衛生の歴史	ペスト、チャドウィック、サニタリーレポート、厚生省、WHO	
3	公衆衛生の活動対象としくみ	社会集団、地域保健法、医療法、健康増進法、保健所、保健センター	
4	疫学概念と歴史 公衆衛生の場での疫学	エビデンス、健康寿命、人口ピラミッド	
5	食中毒	食品衛生法、腸管出血性大腸菌O157、ノロウイルス、食中毒の原因物質	
6	疫学と各種統計	コホート研究、曝露、国勢調査	
7	環境と健康	京都議定書、オゾン層、SPM、シックハウス症候群、廃棄物処理法	
8	食と健康	食品安全基本法、HACCP、食品表示法、食物アレルギー	
9	感染症と予防対策 感染症法	水平感染、垂直感染、アウトブレイク、予防接種、院内感染	
10	公衆衛生上重要な感染症とその対策及び 国際保健	新型インフルエンザ、結核予防法、エイズ、ウイルス性肝炎、多剤耐性菌	
11	地域における公衆衛生の実践 母子保健・成人保健・高齢者保健	母子健康手帳、エンパワメント、生活習慣病、ゲートキーパー、口腔ケア	
12	学校と健康	保健主事、保健管理、栄養教諭、いじめ	
13	職場と健康 労働基準法と労働安全衛生法	労働災害、安全衛生管理体制、働き方改革	
14	健康危機管理・災害保健 公衆衛生学まとめ	PDCAサイクル、DAMT、災害サイクル、スフィア基準	
15	公衆衛生実務演習	新興感染症、少子高齢化、地球温暖化	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向		

授業科目名	看護学概論	担当講師名	高岡 操
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	この授業では、看護の考え方、とらえ方を学ぶ。看護についての考え方、捉え方を学んでいく中で、「普遍的な看護」を理解し、自己の看護観の形成へとつなげていくことを目的とする		
回	授業内容	キーワード	備考
1	I 看護とは① 看護のイメージ		グループワーク
2	看護とは② 看護が行われている場	病院 施設 産業 学校 地域など	講義
3	II 人間にとっての健康とは	健康の概念 ウエルネス ウェルビーイング PHC ヘルスプロモーション、ネガティブ・ポジティブヘルス QOL	グループワーク
4	III 看護の対象	個人 家族 組織 地域	講義
5	III 看護の歴史とその発展	職業的看護の確立 日本における看護職の確立	グループワーク
6		発表	講義
7	IV 看護に求められる役割と機能	自然治癒力 セルフケア コンプライアンス アドヒアランス	講義
8		ナイチンゲール ヘンダーソン オレム ニードの充足	講義
9	V 看護実践の方法①	経験知 科学的根拠 ベナー クリティカルシンキング	講義
10	看護実践の方法②	人間関係技法 問題解決技法 看護過程 トラベルビー ペプロー レイニンガー ワトソン ケアリング	講義
11	VI 看護と倫理	基本的人権 自己決定	講義
12		看護者の倫理綱領	発表
13			
14	X 看護の展望～看護に期待されているもの～	認定看護師 専門看護師 特定看護師	グループワーク
15			発表
評価方法	筆記試験 グループワーク等の発表 レポート		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論(医学書院) よくわかる看護者の倫理綱領(照林社) 看護覚え書(現代社) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版社) 新版看護者の基本的責務(日本看護協会出版社)		

授業科目名	基礎看護技術 I	担当講師名	山内 雅子 夜久 直也
開講時期	1 年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	この授業では看護技術の、環境の整備、安全の守り方、安楽な技術の提供の方法、感染予防の基礎技術を学ぶことを目的とする。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	看護技術とは	技術 技能 再現性 応用性	講義
2	安楽な体位とボディメカニクス	作業姿勢 作業域 作業面	DVD
3	安楽に援助する技術	手順 留意点 根拠 シーツ類のたたみ方	学内演習
4	Ⅲ 環境を整える技術①	安全、安楽	学内演習
5	ベッドメイキング		
6	環境を整える技術②	環境 ナイチンゲール	講義
7	環境を整える技術③	環境整備	学内演習
8	環境を整える技術④	患者の体位 患者の安全 皮膚の落屑 観察	学内演習 GW
9	就床患者のシーツ交換		
10	Ⅳ 感染と感染予防①	スタンダードプリコーション 日常的手洗い 衛生的手洗い 手術的手洗い 防御用具 感染経路予防策	講義
11	感染と感染予防② 消毒と滅菌	消毒 滅菌 無菌	講義
12	感染と感染予防③ ガウンテクニック、無菌操作 滅菌手袋装着	ガウンテクニック 無菌操作 滅菌手袋装着	学内演習
13	感染と感染予防④ 病院における感染予防対策	院内感染予防	講義 ※夜久講師
14	安全管理の技術①	看護事故と医療事故 医療過誤	講義 GW 発表
15	安全管理の技術②	事故予防策	
評価方法	筆記試験 80 点 技術試験 20 点		
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術 I・II (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅱ コミュニケーション 学習支援	担当講師名	湊瀬 佳子
開講時期	1年次 全期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>1 人間関係づくりの基礎となるコミュニケーションに関する理論を理解し、効果的なコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>①看護におけるコミュニケーションの意義と特性を説明できる。</p> <p>②場に応じたコミュニケーション技術を身につける。</p> <p>2 看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチの方法を学ぶ。</p> <p>①対象者に応じた生活指導案が作成できる。</p> <p>②作成した指導案を共有できる。</p>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	コミュニケーションの概念、種類	看護学で学ぶ意味 一方通行と双方向	講義
2	コミュニケーションの基本原理・要素	表現装置（言語的要素、準言語的要素、非言語的要素） ミスコミュニケーション	講義
3	コミュニケーションを円滑にするための基本的態度	接近的行動・非接近行動	講義
4	コミュニケーション自己開示	ジョハリの窓、自己理解他者理解	講義
5	コミュニケーションに必要な能力①	傾聴、コーチング	講義
6	コミュニケーションに必要な能力②	質問、アサーション	講義
7	コミュニケーション障害への対応	失語症、構音障害	講義
8	対人関係の振り返り①	ロールプレイ	講義
9	対人関係の振り返り②	ロールプレイ	演習
10	対人関係の振り返り③	プロセスレコード	講義
11	対人関係の振り返り④	プロセスレコード	演習
12	看護における学習支援	患者教育の変遷	講義
13	対象に応じた学習支援	アクティブラーニング	GW
14	対象に応じた学習支援の実践と共有	ルーブリック評価	発表
15	対象に応じた学習支援の実践と共有	ルーブリック評価	発表
評価方法	筆記試験 80% 演習 20% (ロールプレイ、プロセスレコード、学習支援)		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅲ (活動、休息、食事、排泄)	担当講師名	板澤 瑠美
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 および概要	1. 人間の活動と休息を理解し、対象が健康生活を送るために必要な援助を理解する 2. 栄養と食事のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解する 3. 食事行動や健康のレベルなどに応じた栄養と食事のニーズを充足させる効果的な看護技術を習得する 4. 人間の排泄を理解し、患者が健康的な生活を送るために必要な排泄技術を習得する		
回	授 業 内 容	キ ー ワ ー ド	備 考
1	活動と休息の意義、活動と運動のアセスメント、体位変換の目的と留意点、移動・移送の方法	活動、休息、廃用性症候群、体位変換	講義
2	移動の方法		講義
3	体位変換、移動、移送 演習	支持基底面、重心、摩擦力	演習
4	睡眠・休息の援助、苦痛の緩和・安楽確保の技術	サーカディアンリズム、ポジショニング、罨法	講義
5	食事と栄養の意義、食生活と栄養状態のアセスメント、経口摂取ができる患者の食事介助	BMI、血液検査データ、摂食・嚥下のメカニズム 食事の種類、食形態	講義
6	食事介助		
7	食事介助 演習	誤嚥の予防、スプーンテクニック、口腔ケア	演習
8	非経口栄養法の種類と方法	経管栄養法、中心静脈栄養法	講義
9	排尿・排便の意義、排尿・排便のアセスメント	失禁パターン、プリストルスケール	講義
10	排泄援助の方法	おむつ交換、陰部洗浄	講義
11	排泄援助の実際（おむつ交換、尿器、差し込み便器） 演習	ポータブルトイレ、差し込み便器、尿器	演習
12	排泄に関する処置技術①	浣腸、摘便	講義
13	排泄に関する処置技術②	一時的導尿、持続的導尿	講義
14	【演習】一時的導尿	滅菌操作、感染防止、羞恥心	演習
15	基礎看護技術Ⅲのまとめ	まとめ	講義
評価方法	筆記試験 90%、演習態度（出席含む）・レポート・出席 10%		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）		

授業科目名	基礎看護技術Ⅳ (身体の清潔)	担当者	名倉 真砂美
開講時期	1年前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	身体を清潔に保つことは、人間が生活するためには不可欠である。ここでは、清潔の意義を身体的・心理的・社会的な側面から理解し、援助する方法を習得する。 1. 身体の清潔、衣生活の意義と目的、方法について理解する 2. 身体の清潔、衣生活の看護技術を習得する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	身体の清潔	皮膚・粘膜の機能 清潔の種類・意義・目的 清潔行動	講義
2	口腔の清潔 (意義・目的・方法)	口腔の構造 口腔清潔の意義・目的 口腔ケアの方法	講義
3	口腔の清潔 演習		演習
4	部分浴 (意義・目的・方法)	部分浴の意義・目的 部分浴の方法 温湯の取り扱い 足浴の方法	講義
5	部分浴(足浴) 演習		演習
6	衣生活と寝衣交換 (意義・目的・方法)	衣生活と寝衣交換の意義・目的 寝衣交換の方法	講義
7	寝衣交換 演習		演習
8	全身の清潔 (意義・目的・方法)	全身の清潔の意義・目的 清潔の方法 と選択 全身清拭の方法	講義
9	全身清拭 演習		演習
10			
11	整容・洗髪 (意義・目的・方法)	整容の意義・目的 洗髪の意義・目的 洗髪の方法と選択	講義
12	洗髪 演習		演習
13			
14	全身清拭 演習	看護技術試験内容の説明 事例患者の看護技術演習	演習
15	(事例患者の看護技術)		
評価方法	筆記試験 70% 看護技術試験 20% 演習態度(出席含む)・レポート・出席 10%		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)		

授業科目名	基礎看護技術V バイタルサイン フィジカルアセスメント	担当講師名	木村 一美
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1. ヘルスアセスメント（フィジカルアセスメント）の意義と根拠が理解できる。 2. 一般状態の観察、バイタルサインを測定することの意義と根拠が理解できる。 3. バイタルサイン（呼吸・体温・脈拍・意識）を正確に測定できる。 4. フィジカルイグザミネーションが正確に実施できる。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	ヘルスアセスメントの意義と根拠	ヘルスアセスメントとは	講義
2	フィジカルアセスメントの意義と根拠	フィジカルアセスメントとは	
3	一般状態のアセスメント (バイタルサイン)	バイタルサインとは 生命徴候	
4	一般状態のアセスメント (体温のアセスメント) (意識状態のアセスメント)	体温の正常・異常 体温の影響因子 JCS・GCS	
5	一般状態のアセスメント (呼吸のアセスメント) (脈拍のアセスメント)	呼吸の正常・異常 呼吸の影響因子 血中酸素飽和濃度 (SpO <sub>2</sub> ) 脈拍の正常・異常 脈拍の影響因子	
6	一般状態のアセスメント (血圧のアセスメント)	血圧の正常・異常 血圧の影響因子	
7	バイタルサイン測定の実際	デモンストレーション 測定練習	演習
8	バイタルサイン測定の実際	試験の流れでの演習	演習
9			
10	フィジカルイグザミネーションの基本技術	問診 聴診	講義
11		触診 聴診 打診	
12	フィジカルイグザミネーションの実際	呼吸器・循環器（呼吸音 心音） 消化器（腸蠕動音 腹部） 骨・筋・神経系、感覚器	講義
13	フィジカルイグザミネーションの実際		演習
14			
15	フィジカルアセスメントの実際	事例学習、まとめ	講義
評価方法	技術試験 20点、筆記試験 80点		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術 I （医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）		

授業科目名	基礎看護技術VI (看護過程)	担当講師名	東浦 龍至
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30 時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的思考・問題解決思考に基づく看護過程の展開における思考が理解できる</li> <li>・ゴードンの機能的健康パターンによる看護診断に基づいた看護過程を理解し、対象者のニーズを満たすための看護過程の展開方法が理解できる</li> </ul>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	看護過程の概念	講義の進め方・看護過程の必要性・構成要素	講義 及び 演習
2	ゴードンの機能的健康パターン	各パターンの考え方・内容・分析方法	
3	看護過程の展開 事例 1	情報の整理・アセスメント	
4		関連図	
5		統合アセスメント・看護診断	
6		優先順位・看護計画	
7	看護過程の実際 事例 2	事例提示 アセスメント・関連図	
8		看護診断	
9		優先順位・看護計画の立案	
10		実践の内容・評価基準について	
11		看護計画に基づいた実践	
12			
13		評価	
14		計画の追加修正・総括について	
15	記録と報告	看護記録の実際・報告の必要性など	
評価方法	紙上事例レポート (100 点満点：内容・出席点)		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術 I (医学書院) ゴードン 看護診断マニュアル (医学書院)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅶ	担当講師名	山内 雅子
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	①診療過程における看護師の役割を理解し、治療処置に伴う援助技術の基本を習得する ②与薬を安全かつ正確に行う技術を習得する ③治療・処置時の対象者の心理と看護者の役割が理解できる		
回	授業内容	キーワード	備考
1	検査の意義 基本 看護師の役割	説明と同意	講義 GW DVD
2	検査に伴う看護技術 援助の実際Ⅰ	感染	
3	検査に伴う看護技術 援助の実際Ⅱ	無菌操作 安全 安楽	
4	検査技術Ⅰ 静脈内採血（注射器）	原理 原則	学内演習
5	（手順・留意点・看護師の役割）		
6	検査に伴う看護技術Ⅲ 生体情報のモニタリング	侵襲	講義 DVD
7	検査に伴う看護技術Ⅳ 検査・処置の介助技術	被爆 穿刺	GW
8	与薬に関する基礎知識Ⅰ 与薬の基礎知識と看護師の役割	毒薬・劇薬・麻薬	講義 GW
9	与薬に関する基礎知識Ⅱ 援助の基礎知識	6R 安全 安楽	DVD
10	与薬に関する基礎知識 注射法とは 薬液の吸い上げ	原理原則	講義 DVD
11	与薬の技術Ⅰ 点滴静脈内注射	無菌操作	学内演習
12	（手順・留意点・看護師、患者の役割）		
13	筋肉内・皮下、皮内注射 （手順・留意点・看護師の役割）	筋肉内注射 濃度計算	講義 DVD
14	与薬の技術Ⅱ 筋肉内注射	ホッホシュテッター クラークの点	学内演習
15	（手順・留意点・看護師、患者の役割）		
評価方法	筆記試験 80% 授業内小テスト・講義内課題 20%		
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		

授業科目名	基礎看護技術Ⅷ 救命救急処置・創傷管理など	担当講師名	①板澤 瑠美      ②村上巖
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1. 救急時、終末期における看護の役割を理解し、必要な基礎的な技術を修得する 2. 効果的な呼吸への援助方法を習得する 3. 安全・安楽な罨法の援助方法を習得する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	体温を調整する技術①	冷罨法、温罨法①	講義
2	体温を調整する技術②	冷罨法、温罨法②	演習
3	創傷管理①	皮膚の解剖・生理、創傷の治癒過程	講義
4	創傷管理②	創傷治癒の促進への援助	講義
5	創傷を管理する技術①	包帯法	講義
6	創傷を管理する技術②	包帯法	演習
7	呼吸を楽にする技術①	酸素吸入	講義
8	呼吸を楽にする技術②	酸素ボンベ CPS	演習
9	呼吸を楽にする技術③	体位ドレナージ	講義
10	呼吸を楽にする技術④	気管内吸引	講義／演習
11			
12	救急時における看護の役割	一次救命処置の方法	講義
13	一次救命処置の実際	気道の確保 心マッサージ 人工呼吸 AED	演習
14			
15	終末期における看護の役割	死後の処置	講義
評価方法	筆記試験 ①90点 ②10点 (3・4回目)		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)		

授業科目名	臨床看護総論	担当講師名	
対象学生	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>1. 多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。</p> <p>2. 看護者に求められる問題解決能力の基礎を学習することで、主体的学習行動を習得することができる。</p>		
回数	講義内容	キーワード	備考
1	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	マズロー、エリクソン	講義、個人ワーク、グループワーク
2		病院と施設、在宅における看護	
3	健康状態の経過に基づく看護	健康、急性期	講義、個人ワーク、グループワーク
4		急性期、危機モデル	講義、個人ワーク、グループワーク、DVD
5		リハビリテーション期	講義、個人ワーク、グループワーク、
6		慢性期、病みの軌跡	講義、個人ワーク、
7		終末期、死の受容段階、悲嘆	グループワーク、DVD
8	主要な症状を示す対象者への看護	呼吸、循環、栄養・代謝、排泄、活動・休息、安全・生体防御機能、安楽に関連する症状を示す対象者への看護	プロジェクト学習、ポートフォリオ個人ワーク 【準備】
9			個人ワーク 【情報リサーチ】
10			個人ワーク【制作】
11			グループワーク 【プレゼンテーション】
12			個人ワーク 【再構築・成長確認】
13			
14	治療・処置を受ける対象者への看護	安静、輸液療法	講義、個人ワーク、グループワーク
15		手術療法、化学療法、放射線療法	
評価方法	筆記試験・ポートフォリオ・レポート・グループワーク		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 (医学書院)		

授業科目名	地域看護 I	担当講師名	藪本 初音
開講時期	1年次 前期	単位及び時間数	1単位 16時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で生活する人々の生活と健康実態を知る。</li> <li>地域看護の基本的な理念や機能の概要を学ぶ。</li> </ul>		
回	授 業 内 容	キーワード	備 考
1	地域看護の概念と歴史 地域・在宅看護の役割と実践の場	健康の定義 地域看護と公衆衛生看護 看護職が働く場	講義 演習
2	人々の生活・暮らしと健康 地域診断とは		講義
3	地域診断で用いる主な人口・保健統計	年齢構成、国民生活基礎調査、 患者調査、死亡調査、母子関連指標 国民健康・栄養調査 他	講義
4 5	地域診断演習 西成区または住之江区を調べてみよう	人口動態、疾病罹患率、社会・文化 的環境、医療機関数、その他	演習
6	地域で展開されている主な保健福祉事業	百歳体操、ふれあい喫茶 子育て教室 他	講義
7	地域で生活する高齢者の“通いの場”見学	介護予防	見学
8	地域看護を展開するための基本理論	ポピュレーションアプローチ ハイリスクアプローチ ヘルスプロモーション エンパワメント セルフケア 他	講義
評価方法	筆記試験 (60点) レポート (40点)		
教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)		

授業科目名	成人看護学概論	担当講師名	高田 紳吾
開講時期	1年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>1.成人の身体的・心理的・社会的側面からとらえ、個人およびその家族の発達段階と発達課題を統合的に理解できる</p> <p>2.学習者としての成人の特徴をとらえ、健康教育や患者教育の基礎が理解できる</p> <p>3.成人の生活に焦点を当て、成人期にみられる健康障害や成人の看護に有用な概念について理解できる</p>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	成人とは、大人とは	大人とは、 成長・発育、社会化 成長発達段階と発達課題	講義 及び 演習
2	青年期の特徴	青年期の身体・精神・社会的特徴 青年期を取り巻く環境、健康問題	
3	壮年期～向老期の特徴	壮年期～向老期の身体・精神・社会的特徴 壮年期～向老期を取り巻く環境、健康問題	
4	家族とは、大人の生活とは	成人と家族、家族の機能と現代における変化 成人の生活とは、成人にとって社会とは	
5	成人期の特徴（まとめ）	身体的・心理的・社会的側面	
6	大人の健康と保健・医療・ 福祉システム	社会環境の変化と取り組みと看護 （健康日本 21、がん対策基本法など） ヘルスプロモーション	
7	健康レベルに応じた看護①	急性期の特徴と看護	
8	成人への看護アプローチ①	意思決定のプロセスと支援、代理意思決定、	
9	健康レベルに応じた看護②	回復期の特徴と看護	
10	成人への看護アプローチ②	大人の行動の特徴、ストレス・コーピング	
11	健康レベルに応じた看護③	慢性期の特徴と看護	
12	成人への看護アプローチ③	セルフケアとは、セルフマネジメント、 自己効力、QOL	
13	成人への看護アプローチ④	エンパワメントエデュケーション	
14	健康レベルに応じた看護④	終末期の特徴と看護	
15	成人期にある患者の看護	成人期の特徴と看護の統合	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論（医学書院）		

授業科目名	基礎看護学実習 I	担当講師	
対象学生	1年次 前期 (I-1) 後期 (I-2)	単位及び時間数	1単位 45時間
<p>基礎看護学実習 I-1</p> <p><b>【実習目的】</b> 対象の療養環境と看護実践の見学を通して、看護の実際を学び、看護学を学ぶ動機を明確にする</p> <p><b>【実習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院で療養している対象者の環境を知る</li> <li>2. 看護実践を見学し看護師の仕事を知る</li> <li>3. 看護学生として基本的な実習態度を学ぶ</li> </ol> <p>基礎看護学実習 I-2</p> <p><b>【実習目的】</b> 基礎看護学で学んだ知識、技術、態度を用いて対象理解を深め、対象者に必要な看護援助が理解できる</p> <p><b>【実習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者を理解し、基礎看護技術の原理原則に基づき対象者に必要な日常生活援助が実施できる</li> <li>2. 対象者と援助的なコミュニケーションをはかることができる</li> <li>3. 看護学生として基本的な実習態度が理解し行動できる</li> </ol>			